

2026/8/16「いこいのみぎわ」詩編23

交読文・詩編100：1-5 さ58 せ483 (500)

約半年ぶりに、懐かしい講壇に立たせていただける、大きな恵みに感謝いたします。
日本の風習ではお盆の季節、先達の信仰を心に覚えつつ、新たな思いで歩みましょう。

振り返りと展望

新年に、皆様と共に23編を読み、始まった1年も、残すところあと4ヶ月です。どんな歩みだったでしょうか。大切なことは、振り返りと展望です。教会の大きなビジョンも、それを実現させるのは、小さな変化を、実行し続ける、繰り返しの力です。

今朝、もう一度語られた恵みと慈しみを心に留め、さらなる歩みに向かいましょう。

この年、この教会に、神様が力強く示してくださったのは、恵みと慈しみが、いつも私を追う。という信仰です。これは「たとえ私が愚かであっても、神さまは私を見捨てず、連れ戻してくださる」という信頼です。そして「あらゆる混乱があっても、最終的には、良いことを起こしてくださる」という希望です。

バイブルキャンプで、清水ヶ丘教会の片平先生が、9ヶ月の赤ちゃんを連れて参加しました。名前は「いこいちゃん」です。アニメのちびまる子ちゃんにも「みぎわさん」が登場します。（ちょっと変わったキャラクターですが…）私たちの生涯に、自分自身で、無理だ、解決できないと思う問題が立ちはだかることがあります。詩編はそれを神様が最終的に、必ず憩いの水のほとりに伴ってくださると語りかけます。私たちの牧者であるイエス様は、過去に戻ることも、現状維持を測ることもなく、まさかの十字架の道へ前進されました。その向こうに、復活の希望と、永遠の命の獲得があることを、信じておられたからです。

いこいのみぎわは固定場所ではない

F・ケラー著『羊飼いが見た詩篇23篇』お読みになられましたか？ 羊は大食漢で、誤った管理の元では、最も破壊的な家畜となりうるそうです。しかし正しく管理されれば、堆肥は植物に大変有益で、羊毛も取れるし、いざとなれば食肉にもなり、富と益をもたらす「金のひづめ」と呼ばれるそうです。同書には、このように実際の羊飼いの体験から、私たちのイメージを覆されるエピソードが散りばめられています。

前述の通り、羊たちは、食いしん坊です。正しい管理とは、具体的には、羊たちを常に、新しい場所に連れていくことなのです。「いこいのみぎわ」は、地図に記された固定された地名ではありません。これは、私たちの歩みへのチャレンジです。「今の生活」「手の届く範疇」から踏み出して、何を実践できたでしょう。教会のビジョンに照らして、誰かひとり、教会に連れて来れましたか？ 奉仕に参加しましたか？ 福音が広がるために、何をしてみましたか？ デボーションはやってみましたか？ 礼拝後に、あいさつやおしゃべりを交わしていますか？ これらの招きは、イエス様の、素敵ないこいのみぎわへの歩みなのです。

詩編23編は、園児の暗誦聖句であり、故人の愛称聖句であり、まさにクリスチャンには、ゆりかごから墓場まで、いつも私たちと共にあります、でも、この「あたりまえ」を知らない人々が世界中に多くいます。日本人の99%はそのことを知らないのです。私たちが、イエス様の声に従い、教会のビジョンに向かって、まず歩み始めようではありませんか。

「良い人々は、我々の後で生きる」（テニスン）一後の世代に、泉のありかを示しましょう。知識や成功談ではなく、恵みと慈しみに生きた先に、いこいのみぎわを見つけた証を伝えましょう。